



水原 耕一 議員

Q 交通量の増加。住民の安全対策は

A 町 長

街頭キャンペーンで啓発活動を実施している。

【Q 1】

自転車は軽車両扱いで左側通行だ。狭い道路での出会い頭の事故につながらないように周知徹底はしているか。

【A 1】

小中学生には自転車教室等を開催し周知しているが、それ以外の方への対策を関係機関と協議していく。

【Q 2】

最近、町でミニ団地の開発が進んでいるが、歩道が整備されていないところがある。危険回避のため、路面装飾の施工をしてもらいたい。施工基準とお願いしてから完了までの期間はどのようになっているか。

【A 2】

安全プログラムにおいて決定した箇所を施工する。完了までは1年以上かかる。

【Q 3】

1年以上かかるようでは遅い。ミニ団地ができると分かった時点で町道なら早めの対策がとれるのではないか。

【A 3】

早急に対策が必要なものに対しては臨機応変に対応している。



▶ 避難路

Q 避難路整備事業の取り組みは

A 町 長

たいへん重要なものと認識しており積極的に取り組む。

【Q 1】

この度、皇帝ハイツに鍵が付いている避難路を整備したが、使用できる条件は。

【A 1】

避難場所までの道路が冠水等し、この避難路を利用しなければ安全に避難できない場合のみとしている。

【Q 2】

鍵は誰が開けるのか。夜中や大雨時は危険である。

【A 2】

町職員が開錠するようになると思うが、自治会や自主防災組織にも協力を求める。

【Q 3】

破壊錠等を付ければ鍵は必要ないと思うが、考えは。

【A 3】

熊野高校内を通行する避難路のため、防犯上鍵をつけることとしている。

【Q 4】

避難路ルートに斜面やため池があるが、フェンスがない。危険ではないか。

【A 4】

反射ポールを設置したが、今後避難訓練等を行い、安全に避難できるよう周知を図る。

【Q 5】

今の状況では完璧な避難路として使用できない。今後の取り組みは。

【A 5】

地元の意見を反映できるよう協議していく。

Q 公共施設の利用促進と利便性向上のために

A 町 長

関係各課が連携しながら、精査している。



大瀬戸 宏樹 議員

【Q 1】

利用状況と課題は。

【A 1】

公民館、各防災交流センター、図書館、町民体育館、町民グラウンド等、災害以前に比べ2割減となっている。

ただ今後の対応については、コロナの影響が落ち着いた今年度の状況を見て判断したい。

【Q 2】

町公民館、各3つの防災交流センターには予約システムがあるにも関わらず、決済などの点で不完全な問題が見られる。

またそのほかの施設も同様で、早急に改善を求める。

【A 2】

現時点では需要が低く、費用対効果を考え

るとカード決済などの方式は難しいが、今後国のDX推進の動向などを注視して検討する。

【Q 3】

各施設にWi-Fiを。

【A 3】

費用対効果やニーズを研究し、今後検討していく。



Q 町内のバス事情は

A 町 長

朝夕の通勤・通学等では多く利用されているが、日中の利用者が少ない。

【Q 1】

広電バスの利用状況は把握しているか。

【A 1】

新型コロナウイルス感染症の影響などもあり、バス利用者は減少している。

【Q 2】

阿戸線のここ2年の推移は。

【A 2】

大きな変化はない。

【Q 3】

拠点の理想について民間事業者との連携の見込みは。

【A 3】

現在拠点とすべき候補地の選定や施設規模などの検討を委託しているが、交通結節機能の強化についてはまだ直接的な協議には至っ

ていない。調整が付き次第、連携を進めていく。

【Q 4】

子ども達の進路に大きく影響する事業だが。

【A 4】

熊野町の将来において重要な事業と位置付けて取り組んでいく。



▲朝・夕の阿戸線バス